平成29年1月28日（土）東奥日報（28面）

「短命県脱却実現を」

弘前でCOIサミット

産学官、取り組み発表

COI参画企業などの担当者が意見交換したパネルディスカッション

弘前大学を拠点に、大規模な健診データを活用して健康増進モデル構築を目指す研究プロジェクト「COI（革新的イノベーション創出プログラム拠点事業）」をテーマにした「ヘルシーエイジング・イノベーションサミット」が27日、弘前市のアートホテル弘前シティで開かれた。産学官が一堂に集い、講演や報告などを通じて、短命県脱却やヘルスケア産業の創出について考えた。

弘大や県、弘前市が主催し、約500人が参加した。パネルディスカッションでは参画する大企業や自治体などから15人が一斉に登壇。宮下宗一郎・むつ市長は「健康増進に市民をどう巻き込むかが課題。強いリーダーシップで企業と連携して進めたい」と語った。

基調講演では、弘大COI拠点長で研究を統括する弘大の中路重之教授が「青森県が短命を脱出できれば世界の注目が集まる。必ず成し遂げたい」と強調し、健診当日に診断結果を示しながら受診者を啓発する「新型健診」を2月18日に試行することなどを説明。身につけたまま血圧などを測定できる機器の開発に向け企業の参加を呼び掛けた。

また、参画企業で日用品大手ライオンの濱逸夫社長や料理研究家浜内千波さんが特別講演。健診データの解析状況に加え、県内の地域や学校、職場での健康づくりに関する取り組みも報告された。（鎌田秀人）